

令和 2 年 6 月 9 日現在

機関番号：33804

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16K12239

研究課題名（和文）地域包括ケアにおける連携・協働のコア学習内容に基づいた個別学習プログラムの開発

研究課題名（英文）Development of an individualized learning program based on the contents of core study of the cooperation and collaboration in a community care

研究代表者

本田 彰子（HONDA, AKIKO）

聖隷クリストファー大学・看護学部・教授

研究者番号：90229253

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,600,000円

研究成果の概要（和文）：地域包括ケアシステムにおいて、多職種の連携協働は必須のことであるが、職種間の連携やネットワーク構築に関する能力の向上のための基盤となる学習に関してはあまり注目されていなかった。本研究では、多職種連携により地域での保健医療福祉のネットワークが構築されている事例をもとに、連携協働を推進する学習指標を提示し、円滑な保健医療福祉のケアチーム形成、及び地域ネットワークの活性化につながるツールの開発を行った。学習指標は、地域包括ケアシステムの構築に段階的につながる「自分づくり」「チームづくり」「地域づくり」となり、この内容は実践家に活用可能性があると認められた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

現在、多職種が連携して個々人の保健医療福祉のニーズに対応していくことが求められ、ケアチーム、ケアネットワークが円滑に形成され、それぞれの地域で根付くことにより、ケアシステムとして発展していくこととなる。

本研究は、地域における多職種の連携を促進させるための学びを支援する個別の「学習プログラム」を開発することを目的として取り組んだ。実践家のヒアリングをもとに、地域の実践家、専門家等の意見を広く取り入れ、「自分づくり」「チームづくり」「地域づくり」の学習指標シートを作成し、その利用可能性について検証した。

研究成果の概要（英文）：In a community care system, cooperation of many occupational descriptions is an indispensable matter. However, the method of learning used as the base of cooperation or network construction did not have be interesting.

This research is based on the example of practice heard from the representation of the group who is achieving effect of cooperation. And we presented the index of learning which promotes collaboration. Furthermore, we developed the tool of smooth care team construction. The index of learning consists of "production of itself" - "team construction" - "community improvement" which leads to construction of a community care system gradually. It was admitted that the contents of the index of learning had possible use to a practitioner.

研究分野：在宅看護学

キーワード：多職種連携 地域包括ケア ケアチーム

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

課題名: 地域包括ケアにおける連携・協働のコア学習内容に基づいた個別学習プログラムの開発

1. 研究開始当初の背景

背景: 在院日数が短くなり、通院治療・外来治療へと治療の場が変わってきている。医療的ケアが必要な療養者が増え、加えて、地域包括ケアの充実が期待されている現在、医療保健福祉における人材育成は急務である。特に、地域における支援体制では、職種の専門性を高めるとともに、関わる多様な専門家の連携協働が必須である。それぞれの基礎教育では専門領域の枠を除いた Inter-professional-education(IPE)が取り入れられている。現場においては、当該利用者を中心とした連携・協働、Inter-professional-work(IPW)がなされ、その蓄積で地域におけるケアチーム、ケアネットワークが形成されつつある。しかし、地域在宅の現場で働く、医療職、介護職、福祉職等は、連携や協働につながる教育 IPE を必ずしも受けているわけでもなく、また、現場での経験を学びとして、支援体制整備がなされるような現任教育が十分なされているとも言い難い。

2. 研究の目的

連携をとって保健医療福祉の活動を先駆的に実践している事業所等の集まり(実践的共同体)を対象に、多職種連携・協働を強化支援する地域活動、人材育成について聞き取り調査を実施し、多職種連携・協働を推進する能力育成に資するコアとなる学習ガイドラインを提示する。

3. 研究の方法

1) 学習ガイドライン案作成のための聞き取り調査

対象: ネットワークサンプリング

- ・「多職種連携」「協働」「保健医療福祉」「地域ケア」で検索した文献、および在宅ケア、現任教育に関連した学術集会、シンポジウム、講演会等を基に、研究分担者が、地域における「多職種連携」「協働」を行っている先駆的实践活動を抽出し、社会活動、教育活動を実施している集団、組織(実践的共同体)を選定する。
- ・その活動を始めた者、もしくは現在中心的に活動を展開している者を聞き取り調査の対象とする。
- ・保健医療福祉に関連する職種・役職: 看護師、保健師、社会福祉士、介護福祉士、市区町村保健医療福祉等担当者、ケアマネジャー、相談員、施設長、各種団体等代表者
- ・事業所等の代表の立場、個人の立場など、発言の立場は問わない。
- ・研究責任者と分担研究者で上記に該当する候補事業所、および個人に連絡、依頼をする。

調査: 聞き取り調査

- ・研究対象者から多職種連携・協働にかかる実践例、それに対する振り返りについて録音。
- ・一人 60~90 分程度の個別の聞き取り調査。

分析: 録音データを基に多職種連携・協働にかかる能力育成の要因抽出 - 質的分析 -

- ・対象者の背景、経験、活動等から、能力育成に影響があったと思われる要因を抽出し、整理する。
- ・研究者会議を開催し、各対象者から得られた連携協働につながる能力・力量、およ

び能力養成に影響する要因の全体分析を行う。全体の取りまとめ、連携タイプを考慮した連携・協働の能力獲得のガイドライン案を作成する。

2) 専門家・実践家会議による学習ガイドラインの精練

専門家会議の実施

参加者：学識経験者（専門職教育者、保健師、医師、社会福祉士、介護士）5名

方法：事前にガイドライン案「自分づくり」「チームづくり」「地域づくり」の学習指標3シート項目の「連携協働の学習の行動目標とする妥当性」「連携協働の能力を自己評価する実施可能性」の事前評価（5点評点）を集計し、低い評点項目を中心に採択の可否、及び修正について検討する。

3) 学術集会交流集会による学習ガイドライン案に関する意見収集・精練

参加者：日本看護科学学会学術集会における交流集会に参加した者

方法：専門家会議で精練した学習指標「自分づくり」「チームづくり」「地域づくり」3シートそれぞれの項目に関する、参加者の立場での利用可能性について意見を紙面にて収集。

4) 活動集団における学習ガイドライン案の検証

協力者：研究協力者に関連のある地域における活動集団

川崎市 TOUCH の会（訪問看護師を中心としたネットワーク）

富山県 かたかご会（地域における医療保健福祉関係者の会）

岡山県 まんさくの会（地域における医療保険付記し関係者の会）

方法：専門家会議、交流集会で得た意見等をもとにさらに精練した学習指標「自分づくり」「チームづくり」「地域づくり」3シートの実践現場の人材育成における活用に関する意見収集

4. 研究成果

1) 学習ガイドライン案作成のための聞き取り調査

他職種連携・協働を推進する能力育成のための学習ガイドライン案作成：聞き取り調査の逐語録を質的に分析し、「連携に必要な要素」と抽出、統合し、「連携・協働のためのコア学習内容」として構造化した。連携・協働にまつわる能力獲得には段階があると考え、それに応じて「連携・協働推進の自分づくり」「連携・協働推進のチームづくり」「連携・協働推進の地域づくり」の3つの学習ガイドラインを考案した。身につけたい能力：コンピテシー、能力獲得の要素：学習目標、評価できる学習行動：行動目標として、具体的な学習内容を示すシートをした。

2) 専門家・実践家会議による学習ガイドラインの精練

それぞれ医療保健福祉の立場から、各項目について見直し検討し、表現や学習内容をより適切なものとし、「学習指標」として提示することとした。

3) 学術集会交流集会による学習ガイドライン案に関する意見収集・精練

連携・協働の学習ガイドラインの作成の目的、作成経過、そして3つの学習内容のシート

を提示し、それぞれの立場での「自分づくり」「チームづくり」「地域づくり」のうち最も利活用の可能性が高いもの1つを選定し、そのシート項目の利用可能性、修正改善点等について意見を集約した。

4) 活動集団における学習ガイドライン案の検証

TOUCHの会送付10のうち6回収、まんさくの会送付20のうち13回収、かたかご会送付30のうち16回収、合計35回収(回収率58%)であった。妥当性・利用可能性で評価の低い項目については、基準を設け、意見を参考に、項目の削除、および表現の見直しを行い、学習指標3シートを精練させた。

【連携・協働のための学習指標】

1. 連携協働推進のための自分づくり

コンピテンシー	学習目標	行動目標
自分を磨く力	自分の感情への気づき	2項目
	他者の思いへの気づき	2項目
	専門職としての能力評価	3項目
つながる力	他者への敬意	1項目
	他者への配慮	3項目
	他者との関係維持	2項目

2. 連携協働推進のためのチームづくり

コンピテンシー	学習目標	行動目標
チームづくりに踏み出す力	連携の必要性の判断	1項目
	連携の行動化	1項目
役割・価値観を共有する力	連携方法の選択と活用	2項目
	役割、特性、立場の理解	2項目
	協働の意義の共有	2項目
チームを形成し活性化する力	課題・連携方法の共有	2項目
	チームの強みの共有	2項目
	チームにおける役割の遂行	2項目
	活動の継続と定着	3項目

3. 連携協働推進のための地域づくり

コンピテンシー	学習目標	行動目標
既存の資源を活用し地域で	社会資源の把握	1項目
連携する力	社会資源の活用	3項目
地域に必要な連携を広げる力	連携の拡充の判断	2項目
	資源の探索・開発	4項目
連携を通して地域を創る力	地域のビジョンの共有	2項目
	地域づくりの推進	2項目

5) 考察、及び今後の展望

「自分づくり」から始まる連携・協働：文献検索、分析、及び続く先駆的实践者へのヒアリングを実施し、連携・協働のコアとなる事柄を学習の視点で抽出した。現在ある連携・協働に関する尺度や評価指標は、実際に連携が取れているかをみるものが多い。しかし、ヒアリングからの分析では、連携ができることのみが重要なのではなく、他者と共に働くことができる人となる「自分づくり」から始まり、つながりによりできたチームにより、地域全体に連携が波及していくことに意味があるということがわかった。個人がチームを形成し、地域全体を捉えられるようになるための能力、すなわちコンピテンシーがあり、それを意識することで、地域包括ケアの社会を捉え繋げていく人材になり得ると考える。単なる連携・協働の評価指標ではなく、その能力を養うための学習指標を提示したことが、本研究の特徴であると考えられる。

学習指標の活用：本研究に取り組む前に、訪問看護師の実践力強化を目指した学習指標「訪問看護師 OJT ガイドブック」の作成に取り組んだ。この個別学習のためのガイドは、個々の看護師の実践力評価、必要な学習の抽出、そして実践の中での学びと評価という一連のプロセスを、管理者等の学習支援者とともに進んでいくためのガイドとなるものである。訪問看護師が自らの実践力向上を目指して取り組んだのと同様に、本学習指標を活用するには、連携・協働に関する自らの能力を客観視し、さらなる向上を意識することが、連携・協働のための自分づくりの取り組みには必要であると考えられる。すでに、多職種と良好な関係を持ち、療養者個々のケアの質が保たれている場合には、このような学習指標は取り立てて必要とはならない。しかし、社会的活動として連携や協働が必須である事業所等は、定期的に自己点検を行い、その活動の質の維持向上に努めることが求められている。自己点検の際のツールとして、「チームづくり」「地域づくり」のコンピテンシーは活用することができる。

今後の課題・展望：作成した連携・協働の学習ガイドライン「連携協働推進の自分づくり」「連携推進のチームづくり」「連携協働推進の地域づくり」の活用のための手引きを作成し、活用のサポート方法について、さらに検討を進めていく。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 本田彰子 他12名
2. 発表標題 地域連携自己学習プログラムの開発-ケアチームの「つながる力」「つなげる力」を強める人材育成
3. 学会等名 第37回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山崎 智子 (yamazaki tomoko) (10225237)	東京医科歯科大学・大学院保健衛生学研究科・准教授 (12602)	
研究分担者	内堀 真弓 (uchibori mayumi) (10549976)	東京医科歯科大学・大学院保健衛生学研究科・講師 (12602)	
研究分担者	緒方 泰子 (ogata yasuko) (60361416)	東京医科歯科大学・大学院保健衛生学研究科・教授 (12602)	